

【原 著】

教職志望学生の指導のあり方（６）
—教職相談室の利用の実態から—

小川 潔 武藤 幹夫 小林 清太郎

Provision of Guidance to Students Wishing to Become Teachers (6)
– Status of How the Teaching Profession Consultation Office is Being Used –

Kiyoshi OGAWA, Mikio BUTO, Seitaro KOBAYASHI

2014

岡山大学教師教育開発センター紀要 第４号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.4, March 2014

教職志望学生の指導のあり方 (6)

—教職相談室の利用の実態から—

小川 潔^{*1} 武藤 幹夫^{*1} 小林 清太郎^{*1}

教職相談室では主に教職志望の学生を対象に、教員採用試験に向けての指導を中心とした様々な相談活動を行っている。これまでは2名の教員で指導を行っていたが、今年度は新たに1名の教員が増員された。また、今年度新たな試みとして、夏季休業中の閉校期間中に3日間開室した。これらの結果、年間利用延べ人数が増加した。また、教員採用試験に最終合格した学生とそれ以外の学生では、教職相談室の利用回数に大きな差が見られた。採用試験に合格した学生の教職相談室の平均利用回数は19.68回であったのに対して、1次試験のみ合格の学生は11.18回、合格しなかった学生は2.98回であった。更に、教員採用試験を受験する前年の12月以降の早い時期に利用開始した学生ほど合格率が高くなる傾向にあった。

キーワード：教職相談室、教員の増員、夏季休業中の開室、利用回数、利用開始月

※1 岡山大学教師教育開発センター

I. 教職相談室の利用者数の状況

表1・図1は、平成17年4月から平成25年11月までの利用者数の推移である。平成17年度から平成22年度までは、年間利用延べ人数が増加を続けてきた。これは、平成20年度から教職相談室の教員が2人になったこと、年度初めの学生向けオリエンテーションで学生への周知を徹底させたこと、他の教員が学生に教職相談室を利用するように勧めてくれたこと、学生の口コミで学生間における教職相談室の認知度が高まったことなどが要因であると考えられる。しかし、平成23年度は平成22年度と比較して減少している。これは、毎年4月に教職相談室が指導している教採自主講座の「小論文の書き方」と「面接や模擬授業の受け方」の開講日が、平成23年度は他の講義や教採説明会と重なり、受講生が少なくなったためである。平成24年度は重複することがないように設定して開催することができたため、利用者が3,896人に増加した。

表2は、前年12月から次年11月までの年間利用延べ人数の集計表である。教員採用試験に向けて多くの学生が来室し始めるのが前年の12月であり、多くの自治体の合格発表が終わり学生が来なくなるの

が11月である。そのため、前年の12月から次年の11月までの集計表では、同じ学生が利用し始めてから利用し終わるまでを通しての年間利用延べ人数を比較することができる。平成24年12月から平成25年11月までの年間利用延べ人数は4,362人であり、平成23年12月から平成24年11月までの利用者数と比較すると173人増加した。これには2つの要因が考えられる。詳しくは後述するが、一つは教員が1名増員されて3人体制になったということである。月曜と金曜の午後2時から午後5時までの週6時間、新たに1名の教員が教職相談室での指導に加わる体制が整えられたことにより、ほぼ常時2人体制で指導することが可能となった。二つ目は、岡山県・市教員採用試験の2次試験直前の3日間、教職相談室と近くの3教室を開室したということである。例年、岡山県・市の採用試験は多くの学生が受験するが、大学は夏季休業中で閉校しているために、教職相談室もこれまでは開室していなかった。しかし、学内に学生の受験勉強の機会と場を確保する目的で、今年度初めての試みとして開室することにした。これら2つの要因によって平成24年12月から平成25年11月までの年間利用延べ人数が増加したと考えられる。

表3は平成24年度の学生別利用者数で、表4は平成24年12月から平成25年11月までの学生別利用者数である。教職相談室の利用者の多くは教育学部生であるが、平成24年12月から平成25年11月までの年間利用者4,362人の内、他学部生が348人であった。他学部生の割合は8.0%である。平成24年度の年間利用者数は3,896人で、その内他学部生が406人であり、他学部生の割合は10.4%であった。平成24年12月から平成25年11月までと平成24年度を比較してみると、他学部生が65人減少し、割合も2.6%下がっている。今後は、他学部生の利用を増やす工夫が必要であると考えられる。

表5は平成24年度の教職相談室利用内訳で、表6は平成24年12月から平成25年11月までの教職相談室利用内訳である。平成24年12月から平成25年11月までの集計を平成24年度の集計と比較してみると、大きく増加しているのが「集団討論」と「模擬授業」である。「集団討論」は、697人から996人と299人(約43%)増加している。「模擬授業」は、161人から345人と182人(約114%)増加している。これは、岡山県・市2次試験直前の3日間教職相談室を開室したことにより、2次試験に課される集団討論と模擬授業の練習目的で来室した学生が多かったと考えられる。その一方で、「小論文」は1492人から1266人と226人(約15%)減少している。これは、4～6月に小論文を書いてくる学生が減ったためである。この時期の学生の意識は、「まずは1次試験に向けた対策に集中したい」という傾向であり、2次試験で課される「小論文」が減る一方で、1次試験で課される「個人面接」が増加している。この結果を元に小論文の効果的な指導時期を検討したとき、4月以降よりも、4月になる前の1～3月に行うことがより有効ではないかと考えられる。

「教員志望学生の指導のあり方(5)」でも述べたように、学生が小論文を書いて練習する目的は、単に教員採用試験に合格できる論文が書けるようになるということではなく、教師になったときに「自分はこのような取り組みをしたい」という将来像を創り上げたり、教師としての自覚や心構えを形成したり、教師になりたいという意欲や熱意を高めたりすることにあると考えている。教職相談室が別に開催している教師力養成講座やそのDVD視聴も、現在の学校現場が抱えている教育課題に取り組んでいる現場教師の生の姿に触れることを目的としている。先輩の現場で活躍している姿や話を見たり聞いたりして、自分だったらどうするかということを一緒に考えることによって、自分はどのような教師になり、どのような取り組みをしたいかという将来像を徐々に創り上げ、教師としての自覚や使命感を高めたいと考えている。そのための1つの方法として、本年度から図2のように受付票を改良し、小論文を書いたりDVDを視聴したりすることの目的を学生自身が自覚しやすいように、「A 小論文」と「B DVD視聴」を「1 教師としての自覚や使命感に関すること」の項目に整理統合した。また、学生の意識が1次試験対策に集中する前の1～3月に、小論文とDVD視聴に取り組むことができるよう、教育学部の就職・学生委員会と連携して新たに「教職ガイダンスⅢ」を1月初旬に開催した。そしてそこで、「小論文の書き方」「DVDの視聴の仕方」を、その目的や重要性和ともに学生に伝えるようにした。「教職ガイダンスⅢ」の参加者は183人であった。

表1「教職相談室利用者数の推移」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17年度	104 (47)	184 (21)	168 (13)	195 (18)	267 (2)	29 (3)	81 (9)	46 (6)	33 (12)	17 (5)	31 (8)	23 (2)	1178 (146)
18年度	134 (78)	213 (23)	193 (19)	205 (13)	174 (2)	24 (0)	87 (6)	37 (9)	25 (8)	37 (7)	42 (8)	49 (11)	1220 (184)
19年度	196 (61)	230 (12)	222 (24)	222 (19)	278 (6)	21 (2)	61 (2)	30 (10)	23 (13)	31 (22)	27 (2)	36 (9)	1377 (182)
20年度	209 (96)	539 (137)	387 (17)	539 (21)	430 (7)	37 (3)	148 (19)	88 (12)	104 (43)	90 (28)	86 (13)	113 (12)	2770 (408)
21年度	305 (149)	479 (94)	496 (30)	623 (25)	421 (13)	66 (4)	176 (22)	106 (26)	99 (26)	154 (33)	152 (17)	126 (9)	3203 (448)
22年度	731 (238)	710 (52)	556 (18)	711 (14)	501 (15)	87 (4)	261 (12)	155 (17)	230 (47)	293 (43)	217 (14)	141 (3)	4593 (477)
23年度	359 (143)	596 (85)	458 (38)	505 (24)	526 (15)	99 (4)	200 (6)	106 (21)	165 (65)	266 (39)	257 (21)	164 (9)	3701 (470)
24年度	772 (241)	650 (67)	495 (24)	654 (19)	414 (21)	59 (5)	195 (22)	98 (21)	148 (45)	127 (23)	140 (12)	144 (6)	3896 (506)
25年度	654 (231)	743 (59)	461 (12)	802 (12)	772 (20)	89 (6)	194 (22)	88 (16)					3803 (378)

図１「教職相談室利用者の月別比較」

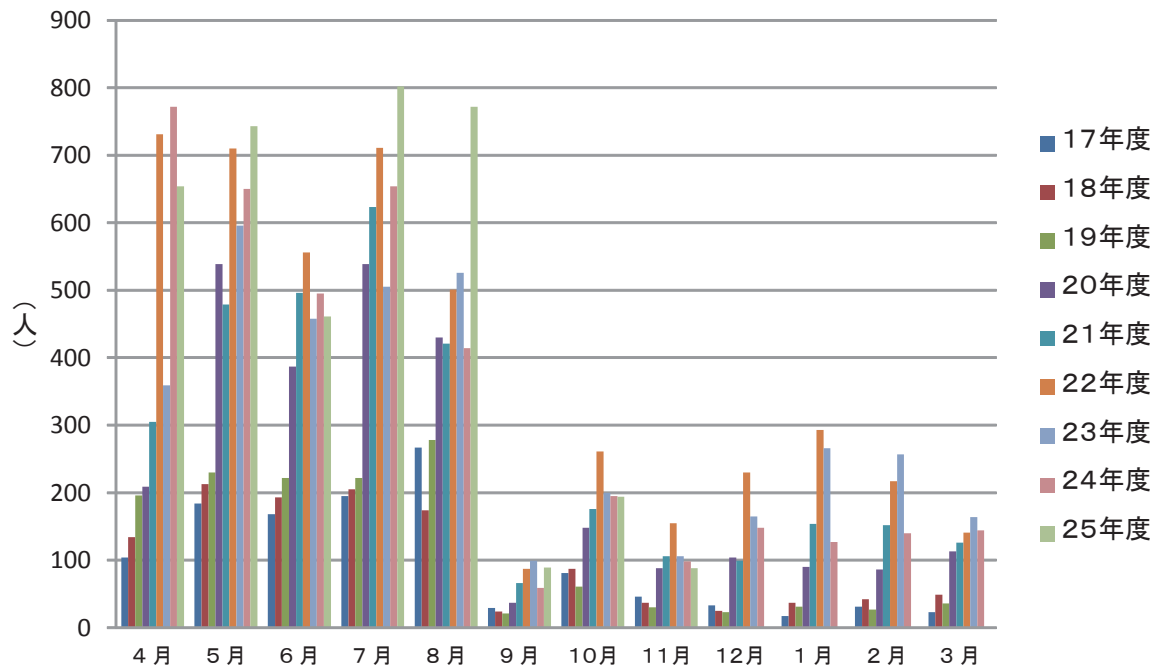


表２「前年１２月から次年１１月までの利用者数の推移」

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
H17.12	33	17	31	23	134	213	193	205	174	24	87	37	1171
～H18.11	(12)	(5)	(8)	(2)	(78)	(23)	(19)	(13)	(2)	(0)	(6)	(9)	(177)
H18.12	25	37	42	49	196	230	222	222	278	21	61	30	1413
～H19.11	(8)	(7)	(8)	(11)	(61)	(12)	(24)	(19)	(6)	(2)	(2)	(10)	(170)
H19.12	23	31	27	36	209	539	387	539	430	37	148	88	2494
～H20.11	(13)	(22)	(2)	(9)	(96)	(137)	(17)	(21)	(7)	(3)	(19)	(12)	(358)
H20.12	104	90	86	113	305	479	496	623	421	66	176	106	3065
～H21.11	(43)	(28)	(13)	(12)	(149)	(94)	(30)	(25)	(13)	(4)	(22)	(26)	(459)
H21.12	99	154	152	126	731	710	556	711	501	87	261	155	4243
～H22.11	(26)	(33)	(17)	(9)	(238)	(52)	(18)	(14)	(15)	(4)	(12)	(17)	(455)
H22.12	230	293	217	141	359	596	458	505	526	99	200	106	3730
～H23.11	(47)	(43)	(14)	(3)	(143)	(85)	(38)	(24)	(15)	(4)	(6)	(21)	(443)
H23.12	165	266	257	164	772	650	495	654	414	59	195	98	4189
～H24.11	(65)	(39)	(21)	(9)	(241)	(67)	(24)	(19)	(21)	(5)	(22)	(21)	(554)
H24.12	148	127	140	144	654	743	461	802	772	89	194	88	4362
～H25.11	(45)	(23)	(12)	(6)	(231)	(59)	(12)	(12)	(20)	(6)	(22)	(16)	(464)

表３「平成２４年度学生別利用者数」

2013年3月31日現在																															
	学部					大学院			別	特	専	その他																	計	合 計	
	4 年	3 年	2 年	1 年	計	2 年	1 年	計				卒業生					他学部														
												教育学 研究科	教育学 博士前期	別科	計	学部				大学院											
																文学部	法学部	経済 学部	理学部	工学部	環境理 工学部	農学部	理療生命 科学	自然科学 博士前期 理工学系	社会科学 博士前期 工学系	社会科学 博士前期 工学系	環境学 博士前期	その他			計
4 月	612	39	0	2	653	39	13	52	12	3	0	0	0	0	16	0	1	13	0	0	0	0	5	12	0	5	0	0	52	67	772
5 月	482	2	0	2	486	32	10	42	47	2	1	2	0	3	14	0	0	17	2	0	0	5	25	0	7	0	0	70	122	650	
6 月	360	1	1	1	363	16	4	20	59	0	6	0	0	6	14	0	0	11	1	0	1	3	12	0	5	0	0	47	112	495	
7 月	477	5	0	0	482	25	0	25	78	1	0	2	0	2	23	0	0	4	0	1	0	3	30	1	4	0	0	66	147	654	
8 月	301	5	0	0	306	23	0	23	22	2	5	1	1	7	11	1	0	7	0	0	0	2	28	0	3	1	1	54	85	414	
9 月	42	9	0	0	51	1	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	6	59	
10 月	133	21	0	1	155	4	1	5	6	0	2	0	0	2	12	0	0	4	1	0	1	1	7	0	1	0	0	27	35	195	
11 月	46	30	0	0	76	0	1	1	0	0	1	0	0	1	9	0	0	4	0	0	0	0	6	1	0	0	0	20	21	98	
12 月	32	96	0	0	128	0	2	2	4	0	0	0	0	4	0	0	2	3	0	0	0	1	4	0	0	0	0	14	18	148	
1 月	18	88	1	0	107	0	4	4	4	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	1	0	1	3	2	1	0	0	12	16	127	
2 月	11	105	0	0	116	0	3	3	1	0	1	0	0	1	7	0	0	5	0	0	0	3	0	4	0	0	0	19	21	140	
3 月	8	111	0	0	119	0	3	3	0	0	0	0	0	0	4	1	0	10	0	0	0	1	2	4	0	0	0	22	22	144	
合 計	2522	512	2	6	3042	140	42	182	236	8	16	5	1	22	117	2	3	81	4	2	2	25	130	12	26	1	1	406	672	3896	

*注：利用者数はのべ人数である。

表4 「平成24年12月から平成25年11月までの学生別利用者数」

2013年11月30日現在

	教育 学部	教育 学 研 究 科	その他																				合 計		
			別 科	特 専	卒業生		他学部																	計	
					教育 学部	教育学 研究科	計	学部							大学院					計					
								文学部	法学部	経済 学部	理学部	工学部	環境理 工学部	農学部	マッペン プログラム コース	計	環境生命 科学	自然科学 博士前期 理学系	自然科学 博士前期 工学系		社会文化 科学博士 前期				
12 月	128	2	4	0	0	0	0	4	0	2	3	0	0	0	0	9	1	4	0	0	5	0	14	18	148
1 月	107	4	4	0	0	0	0	3	0	0	1	0	1	0	0	5	1	3	2	1	7	0	12	16	127
2 月	116	3	1	0	1	0	1	7	0	0	5	0	0	0	0	12	3	0	4	0	7	0	19	21	140
3 月	119	3	0	0	0	0	0	4	1	0	10	0	0	0	0	15	1	2	4	0	7	0	22	22	144
4 月	565	34	17	0	4	0	4	7	0	0	11	0	0	2	0	20	0	10	4	0	14	0	34	55	654
5 月	616	47	25	0	5	0	5	17	0	4	15	0	0	2	1	39	0	6	3	0	9	2	50	80	743
6 月	385	28	7	0	9	0	9	8	0	0	8	0	0	1	0	17	0	11	4	0	15	0	32	48	461
7 月	650	34	36	0	8	0	8	33	0	0	18	1	2	3	0	57	1	10	6	0	17	0	74	118	802
8 月	643	64	2	0	15	1	16	13	0	0	13	1	0	0	0	27	2	10	2	0	14	6	47	65	772
9 月	75	3	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	3	0	0	9	2	0	0	0	2	0	11	11	89
10 月	160	8	2	0	1	0	1	3	0	0	13	0	4	0	0	20	2	0	1	0	3	0	23	26	194
11 月	72	0	5	0	1	0	1	1	0	0	6	2	0	0	0	9	0	0	1	0	1	0	10	16	88
合 計	3636	230	103	0	44	1	45	102	1	6	107	4	10	8	1	239	13	56	31	1	101	8	348	496	4362

表5 「平成24年度教職相談室の利用の内訳」

項目		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1. 教員採用試験に 関すること	集団討論		16	180	144	211	73	0	26	26	1	19	0	1	697
	個人・集団面接		198	57	155	237	98	13	17	14	17	7	3	1	817
	模擬授業		2	0	1	50	97	1	9	0	0	0	0	1	161
	作文添削		443	312	146	115	108	18	17	13	45	69	104	102	1492
	DVD視聴		60	21	17	3	0	0	0	4	10	0	15	25	155
	情報・資料提供等		40	63	27	33	21	15	17	14	53	23	13	5	324
小 計			759	633	490	649	397	47	86	71	126	118	135	135	3646
2. 講師採用に関すること			4	8	1	2	10	1	11	4	3	2	1	3	50
3. 進路に関すること			8	9	2	3	7	11	97	19	19	7	4	6	192
4. 学校教育に関すること			1	0	2	0	0	0	1	4	0	0	0	0	8
合 計			772	650	495	654	414	59	195	98	148	127	140	144	3896

表6 「平成24年12月から平成25年11月までの教職相談室利用内訳」

項目		月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
1. 教師としての自覚や 使命感に関すること	A. 小論文		45	69	104	102	327	270	107	91	118	5	16	12	1266
	B. DVD視聴		10	0	15	25	93	43	6	6	0	0	0	7	205
	C. 個人・集団面接		17	7	3	1	173	90	158	298	138	13	44	33	975
2. 教員採用試験に 関すること	D. 集団討論		1	19	0	1	1	233	171	285	235	21	29	0	996
	E. 模擬授業		0	0	0	1	1	0	0	90	235	17	1	0	345
	F. 情報・資料提供等		53	23	13	5	45	77	15	29	28	8	21	17	334
小 計			126	118	135	135	640	713	457	799	754	64	111	69	4121
3. 講師採用に関すること			3	2	1	3	1	16	2	3	4	4	5	5	49
4. 進路に関すること			19	7	4	6	12	14	1	0	14	21	76	14	188
5. 学校教育に関すること			0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	4
合 計			148	127	140	144	654	743	461	802	772	89	194	88	4362

図２「受付票」

教職相談室 相談カルテ		相談回数	回目
入室前に学生番号、名前、日時と今日の相談内容を記入しておいて下さい。			
学生番号 (卒業生で学生番号を覚えていない人は、空欄にしてください)	名前		
今日の相談内容 (最も当てはまるもの1つに○をつけて下さい。)	入室した日時 月 日 時 分		
1. 教職としての 自覚や使命感に関する事	A. 小論文 B. DVD視聴		
2. 教員採用試験に 関すること	C. 個人・集団面接 D. 集団討論 E. 模擬授業 F. 情報・資料提供等		
3. 講師採用に関する事			
4. 通級に関する事			
5. 学校教育に関する事			
備考			

II. 本年度の取り組み

本年度も主に次のような取り組みを行ってきた。

- ① 教員採用試験に向けての勉強方法についての相談
- ② 学校支援ボランティアについての相談
- ③ 教職という仕事全般についての相談
- ④ 教師力養成講座のDVD視聴
- ⑤ 教員採用試験に向けての個別的・具体的な指導
 - ア 小論文
 - イ 個人面接
 - ウ 集団討論
 - エ 模擬授業
 - オ ロールプレイングや場面指導

上記の具体的な取り組みについては、これまでの「教員志望学生の指導のあり方（１）～（５）」で記してきたので、今回は、今年度新たに取り組んだ「教員の３人体制」「夏季休業中の開室」「予約表の改良」の３点について述べる。

１ 教員の３人体制

教職相談室の最も利用者の多い４月から８月までの時期は、これまで、指導を受けたいという学生の予約でいっぱいになり、学生が利用したくても利用できない状況であった。また、これまでの２名の教員は義務教育の現場を経験した者であったため、その多くが高校教員を志望している他学部生の要望に十分応えることができていなかった。そこで、平成 25 年 7 月より、高校現場を経験した教員が 1 名増員されることになり、月曜と金曜の午後 2 時から 5 時までの週 6 時間勤務することとなった。そのことにより、月曜から金曜のほぼ常時、２人体制で指導できるようになるとともに、高校教員を目指している学生に対しても、その要望を十分に叶えることができるようになった。その結果、平成 23 年 12 月から平成 24 年 11 月までの利用者を前年同期と比較すると 173 人増加した。

２ 夏季休業中の開室

岡山県・市の 2 次試験は、例年、8 月中旬の夏季休業中に行われてきた。この時期は大学が閉校中であるため、学生は学外で受験勉強することを余儀なくされていた。そこで、今年度は、岡山県・市 2 次試験が行われる直前の 8 月 14・15・16 日の 3 日間、教職相談室を開けて指導することとした。また、それとともに、学生同士が情報交換したり、模擬授業や集団討論をしたりすることができる場として、教職相談室の近くの 3 教室を開放した。その結果、多くの学生が来室し、この 3 日間延べ 228 人・実人数 100 人が利用した。

３ 予約表の改良

これまでは市販の大型カレンダーに予約する学生の「名前」「時刻」「指導項目」を教員がボールペンで記入していた。この方法では、どの日のどの時間が空いているのかがあまり明確でなく、予約のたびに学生や教員の時間と手間を要していた。しかし、図 3 のように予約表を改良したことにより（事務の方に改良していただいた）、どの日のどの時間が空いているのかが、学生や教員に一目で分かるようになった。また、新たに予約しようとする学生が、予約日と時刻をすぐ決めることができるようになり、学生と教員の時間と手間を大幅に削減することができるようになった。

図3「予約表」

Ⅲ. 教職相談室の利用回数・利用開始月と教員採用試験の合否

「教職相談室を利用した回数」及び「教職相談室を利用し始めた月」と「教員採用試験における合否の結果」について比較する。

1 分析の対象

(1) 分析対象期間

教職相談室の利用回数について、昨年度は前年の12月1日から次年の11月30日までの12か月間と

してきたが、今回は平成24年4月1日から平成25年11月30日までの20か月間とした。その理由は、学生が教職相談室を利用し始めるきっかけの多くが12月初旬に開催される「教職ガイダンス」であるが、3年生になってすぐの4月に来室したり、実習前の9月・10月に来室したりする学生が徐々に増えてきているからである。また、その期間の利用回数も総利用回数としてカウントした方が統計上正確な数字となるからである。

(2) 分析対象者

上記分析対象期間に教職相談室を利用した学生は378人であった。その内、1年生、2年生、3年生などの教員採用試験を受けていない者は54人であった。378人から54人を除いた324人の教員採用試験受験者の内、68名が試験結果の合否が不明であるため、更にそれを除いた256名を教職相談室を利用した学生としての調査対象とした。一方、教育学部・教育学研究科と他学部・大学院の学生で、教員採用試験を受験して合否が分かっている者の内、教職相談室を利用しなかった学生は72人であった。そこで、教職相談室を利用した256人と教職相談室を利用しなかった72人を加えた328人を調査対象者とした。

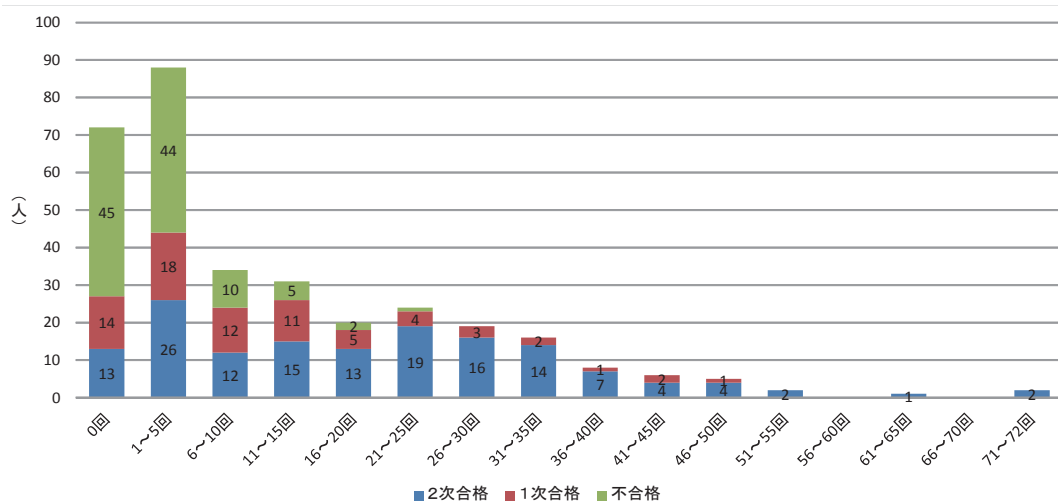
(3) 分類

328人の内、教員採用試験に最終的に合格した148人を「2次合格」群、1次試験に合格したが2次以降の試験には合格しなかった73人を「1次合格」群、1次試験に合格しなかった107人を「不合格」群と分類した。なお、複数の地域で受験した学生については、最も結果の良かったものをその学生の最終結果として採用した。各群に分類された学生の教職相談室の利用回数を表7及び図4に示した。

表7「教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否」

合否	平均利用 回数(回)	教職相談室利用回数ごとの人数 (人)																計(人)
		0回	1~5回	6~10回	11~15回	16~20回	21~25回	26~30回	31~35回	36~40回	41~45回	46~50回	51~55回	56~60回	61~65回	66~70回	71~72回	
2次合格	19.68	13	26	12	15	13	19	16	14	7	4	4	2		1		2	148
	%	8.8	17.5	8.1	10.2	8.8	12.9	10.9	9.4	4.7	2.7	2.7	1.3		0.7		1.3	100
1次合格	11.18	14	18	12	11	5	4	3	2	1	2	1						73
	%	19.2	24.7	16.5	15.2	6.8	5.5	4.1	2.7	1.3	2.7	1.3						100
不合格	2.98	45	44	10	5	2	1											107
	%	42.1	41.1	9.4	4.7	1.8	0.9											100
全体	12.32	72	88	34	31	20	24	19	16	8	6	5	2		1		2	328
	%	22	26.8	10.4	9.5	6.1	7.3	5.8	4.9	2.4	1.8	1.5	0.6		0.3		0.6	100

図４「教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否」



２ 教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否

一人あたりの教職相談室の平均利用回数は、２次合格群は19.68回、１次合格群は11.18回、不合格群は2.98回、全体の平均は12.32回であった。昨年度の集計結果と比較すると、２次合格群は3.74回、１次合格群は0.86回、不合格群は0.15回の増加であった。これは、昨年度までは含めていなかった平成24年4月から平成25年11月までの8か月間の利用回数を新たに加えたためである。

本年度の各群の利用回数を比較すると、２次合格群と１次合格群では約1.8倍、１次合格群と不合格群では約3.8倍、２次合格群と不合格群では約6.6倍の差があった。

利用回数ごとの人数をみると、不合格群では0回が最も多く全体の42.1%であり、0回と1～5回の利用者が全体の83.2%であった。１次合格群では1～5回が最も多く全体の24.7%であり、0回と1～5回の利用者が全体の43.9%であった。このことから、２次合格に至らなかった学生は、２次合格群の学生と比べて教職相談室の利用回数が少なかったと分析できる。また、２次合格群とそれ以外の群では、16回以上の利用者に違いが見られた。２次合格群では、16回以上の利用者が82人(55.4%)であるのに対して、１次合格群では18人(24.4%)、不合格群では3人(2.7%)であった。このことから、今後、教職相談室の利用回数を16回以上に上げることを学生に勧めるとともに、16回以上利用すると合格率が大きく上昇することを伝えていきたい。

３ 教職相談室の利用開始月と教員採用試験の合否

教職相談室を利用した学生の内、教員採用試験の合否が確認できる243人の利用開始月と合否の結果を示したものが表8である。平成24年4月から11月の間に教職相談室を利用し始めた53人の内36人(67.9%)が２次合格し、10人(18.9%)が１次合格、7人(13.2%)が不合格となっている。平成24年の12月に教職相談室を利用し始めた34人の内28人(82.4%)が２次合格し、5人(14.7%)が１次合格、1人(2.9%)が不合格となっている。平成24年4月から11月までの早い時期に利用し始めた学生が、それより遅い12月に利用し始めた学生よりも２次合格者の割合が低いのは、比較的早い時期に来室する学生の中に教職を志望するかどうか迷っている学生が多くいたためであると考えられる。

平成24年12月に利用し始めた学生の２次合格者と１次合格者の合計は33人であり、全体の97.1%をしめている。以下、２次合格者の数と(割合)は、1月:12人(66.7%)、2月:5人(50.0%)、3月:2人(40.0%)、4月:34人(39.5%)、5月:7人(43.7%)、6月:2人(40.0%)、7月:1人(16.7%)で、概ね利用開始月が遅くなるほど２次合格者の数と割合は減少していく傾向にあり、早い時期から利用すればするほど合格率が高くなるという結果になっている。このことから、3年生の教育実習が終わった時期や12月初旬と1月初旬の2回開催される「教職ガイダンスⅡ・Ⅲ」をきっかけにして、まず一度教職相談室に来室することを勧めていきたい。

表8 「教職相談室の利用開始月と教員採用試験の合否」

利用開始月	2次合格者数		1次合格者数		不合格者数		合計人数	
	人	%	人	%	人	%	人	%
平成24年 4～11	36	67.9	10	18.9	7	13.2	53	
12	28	82.4	5	14.7	1	2.9	34	100
1	12	66.7	5	27.8	1	5.5	18	100
2	5	50.0	3	30.0	2	20.0	10	100
3	2	40.0	3	60.0		0.0	5	100
4	34	39.5	20	23.3	32	37.2	86	100
5	7	43.7	4	25.0	5	31.3	16	100
6	2	40.0	1	20.0	2	40.0	5	100
7	1	16.7		0.0	5	83.3	6	100
8	5	83.3	1	16.7		0.0	6	100
9		0.0	3	100.0		0.0	3	100
10		0.0	1	100.0		0.0	1	100
11		0.0		0.0		0.0		100
合計	132	54.4	56	23.0	55	22.6	243	100

IV. 今後の取り組み

- 利用回数ごとの教採合否結果を示したものが表9で、教員採用試験合格者の相談室平均利用回数は19.68回である。利用回数ごとの合格者数と不合格者数を比較してみると、利用回数が0～10回では概ね不合格者が合格者を上回っているが、11回以上では合格者が不合格者を上回っている。そしてまた、11回以上では、66%が2次合格し、40%が1次合格している。今後も、まずは小論文の指導や教師力養成講座のDVD視聴を通じて11回以上の利用を働きかけていきたい。これらの指導を4月まで継続した後、5月の連休明けから集団討論や面接などの指導を行い、試験当日までに20回以上の利用を実現するように働きかけていきたい。

また、教員採用試験を受験した者の内、72名が教職相談室を利用していない。そして、その内の63%にあたる45人が不合格となっている。今後も様々な広報活動を通して、教員採用試験を受験する全学部の学生に対して、一度は教職相談室に来室することを勧めていきたい。

- 平成25年7月から教員を1名増員していただいたことにより、月曜から金曜までのほとんどの時間を2人体制で指導できるようになった。また、高校現場を経験した者が加わったことにより、今まで困難であった高校への学校支援ボランティアの依頼や高校現場に関する情報提供などがスムーズに行えるようになった。その結果、教職相談室の年間利用延べ人数の増加につながったと考えている。今後は、高校教員を志望する学生への広報活動を更に行い、他学部などからの来室者を一層増やす工夫をしていきたいと考えている。

- 昨年度と今年度、教育学部の就職・学生委員会と教職相談室が連携して学生への就職支援活動を行うことができたことは大変ありがたく、有意義なことであった。その中の一つとして、「教職ガイダンスⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の開催があった。「教職ガイダンスⅠ・Ⅱ」では、教採合格者の体験談や卒業生からのエールなど、共同して実施内容を検討するとともに、会の運営にもあたることができた。そして、今年度は新たに「教職ガイダンスⅢ」を開催することもできた。これは、来年度に教員採用試験を受ける学生を対象にして1月8日に開催したものであり、内容は「教職相談室の紹介」「DVDの視聴」「小論文の書き方」であった。例年これらの内容は、4月下旬に開催される教採自主講座で行っていたが、その時期から教職相談室を利用し始めたり、小論文を書き始めたり、DVDを視聴し始めたりするのは遅いのが実情である。本論でも述べたように、小論文を書いたりDVDを視聴したりする目的は、教師としての自覚や使命感を高めるためである。そこで、今年度は、新たに「教職ガイダンスⅢ」を開催することとした。就職・学生委員会との連携があったからこそ可能となったことである。

表９「教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否結果

利用回数	２次合格者数	１次合格者数	不合格者数	合 計
0	13	14	45	72
1	3	3	11	17
2	4	4	12	20
3	8	2	8	18
4	7	2	4	13
5	4	7	9	20
6	2	3	4	9
7	3		3	6
8	1	7	2	10
9	2	1	1	4
10	4	1		5
11	3	1	1	5
12	1	2	2	5
13	5	1	1	7
14	2	2	1	5
15	4	5		9
16	2	1		3
17		2		2
18	2		2	4
19	6	2		8
20	3			3
21	4	1		5
22	3	1		4
23	6	2		8
24	4			4
25	2		1	3
26	4	2		6
27	2			2
28	3			3
29	4			4
30	3	1		4
31	1	1		2
32	3			3
33	5			5
34	2			2
35	3	1		4
36	2			2
37				
38	1	1		2
39	1			1
40	3			3
41				
42				
43	1	1		2
44	2			2
45	1	1		2
46	1			1
47	1			1
48	1	1		2
49				
50	1			1
51	2			2
52				
53				
54				
55				
56				
57				
58				
59				
60				
61				
62	1			1
63				
64				
65				
66				
67				
68				
69				
70				
71				
72	2			2
合計人数	148	73	107	328
平均回数	19.68	11.18	2.98	12.32
	2913	816	313	4042

Title : Provision of Guidance to Students Wishing to Become Teachers (6)

Subtitle : Status of How the Teaching Profession Consultation Office is Being Used

Kiyoshi OGAWA *1, Mikio BUTO*1, Seitaro KOBAYASHI *1

(Abstracts) The Teaching Profession Consultation Office helps the students, who wish to become teachers, mainly in their studying for teaching staff examination. There were some changes in the number of teaching staff, one at first two in 2008, and three this school year. The Office was open additional three days in the summer holidays, which increased the number of the students who visited the office in a year. There was a great difference in the frequency of the visit between the students who had passed the teaching staff examination and those who had not. The average frequency of the students who has passed the exam is 19.68. On the other hand, that of those who has passed only the first stage exam is 11.18 and that of those who has not passed is 2.98. It is also obvious that the earlier they started to visit the office continually, the higher possibility there was that they could succeed.

Keywords: Teaching Profession Consultation Office , increasing staff, open office in summer holidays, visit frequency, visit start month

*1 Center for Teacher Education and Development, Okayama University
